

北方資料展目録

大正浪漫 港町小樽

市立小樽図書館創立百年物語

会場 エントランス展示コーナー
会期 平成二十八年十月二十九日(土)
十一月二十七日(火)



館書図樽小立市 催共

小樽が最も光り輝いた時代

大正時代 ——。それは小樽が最も輝いた良き時代でした。小樽は天然の良港である小樽港のおかげで、早くから物流の拠点として発展し、明治 32（1899）年には区制を実施、更には開港場に指定され、国際貿易港として発展していきます。そして、日清戦争（1894～1895）、日露戦争（1904～1905）、第一次世界大戦（1914～1918）と、打ち続く戦争は、さまざまな物資を必要とし、小樽に好景気をもたらしました。

小樽図書館が誕生した大正 5（1916）年の小樽の人口は 10 万 2,106 人でしたが、この頃、人口 10 万人を超える都市は少なく、大正 9（1920）年に行われた第 1 回国勢調査の結果からも、小樽は第 13 位の人口規模を持つ全国有数の大都市ということがわかります。

大正 11（1922）年 8 月 1 日、市制が施行され、小樽は、札幌、函館、旭川、室蘭、釧路とともに北海道で初めての「市」となります。

まさに、小樽は日本屈指の経済都市として黄金期を迎えたのです。

小樽図書館誕生ヒストリー

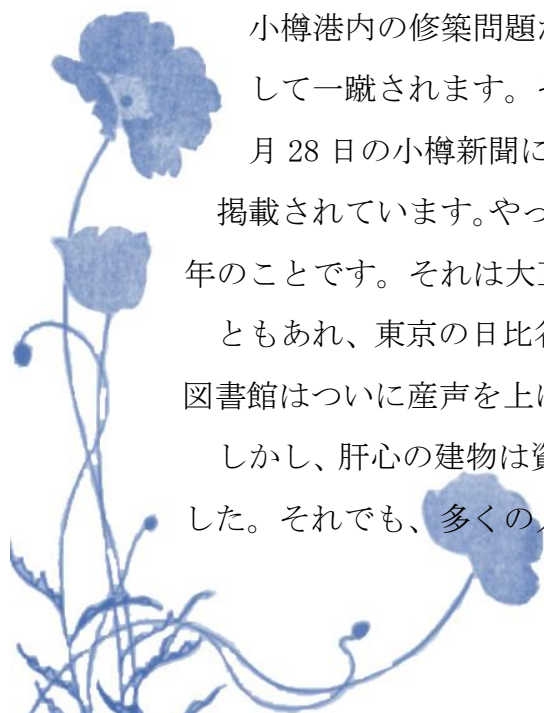
大正 5（1916）年に市立小樽図書館（当時は区立小樽図書館）ができてから、今年で 100 年となりました。北海道では、市町村立図書館としては、枝幸町立図書館に次いで 2 番目に古い図書館になります。

小樽図書館は小樽が「北の都」として成長する中で誕生しましたが、それは順風満帆であったとは言いがたいものでした。図書館建設の話は早くから持ち上がっていたものの、

小樽港内の修築問題が重視され、明治 32（1899）年、図書館は「不急」の話として一蹴されます。その後もなかなか設置にはいたらず、明治 35（1902）年 9 月 28 日の小樽新聞には、経済性を重視し読書を軽視する世の風潮を嘆く記事が掲載されています。やっと小樽区会の設置許可が下りたのは、16年後の大正 4（1915）年のことです。それは大正天皇の即位記念行事としてのことでした。

ともあれ、東京の日比谷図書館から司書を招き、大正 5（1916）年 8 月 1 日、小樽図書館はついに産声を上げます。

しかし、肝心の建物は資金難から見送られ、当時の区役所の一室に開設されたのでした。それでも、多くの人々が待ち望んだ図書館がついに誕生した瞬間でした。

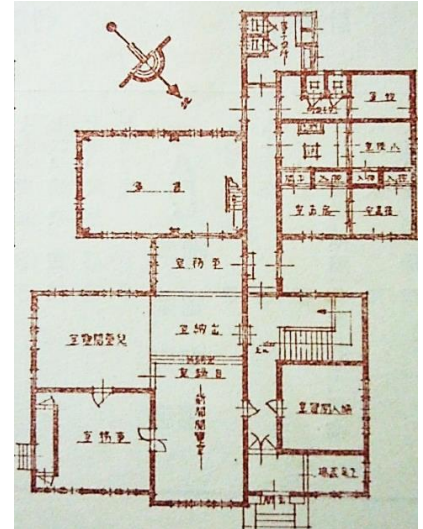


公園に建つ瀟洒な洋館

許可が下りた後も資金面から建物を建てることができず、やっと完成を見たのは、大正 12 (1923) 年 11 月 30 日。実に、当初の計画から 20 年以上、開館から 7 年という長い年月が経っていました。

小樽市民に読書の喜びを伝える図書館は、小樽公園の一角に建てられました。当時の社会状況を反映し、「普通閲覧室」「児童閲覧室」とは別に、「婦人閲覧室」が設けられていました。木造 2 階建てのその瀟洒な洋館は、その後 60 年もの長きに渡り市民に愛され、小樽の歴史を見守り続けましたが、昭和 57 (1982) 年、静かにその役目を終えました。

そして、その同じ場所に昭和 58 (1983) 年にオープンした新館が、市民と本の出会いの場となり、現在に至ります。



図書館を作ろう！ 渡邊兵四郎の努力

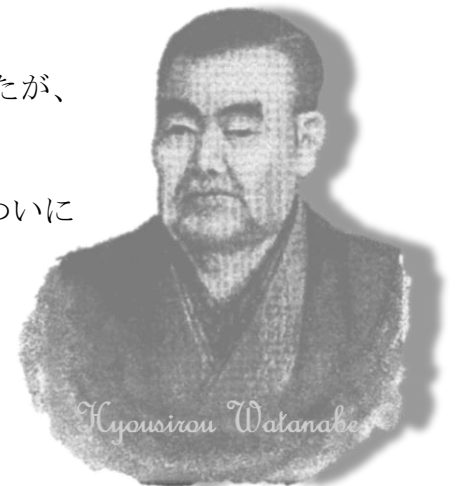
図書館設立に尽力した一人が、第 5 代小樽区長渡邊兵四郎 (1846~1932) です。彼は明治 45 (1912) 年 1 月の小樽教育会第 12 回総会において会長に再任されたその挨拶の席上、図書館設置の希望を述べ、設立に向けて設計や寄附金などの具体的な協議を推し進めていきます。

そして、同年 3 月に小樽区長に就任すると、6 月には小樽教育会長名で花園公園内の敷地の無償使用を出願し、許可を得ます。

こうして、一気に図書館設立に向けて進み出したかに見えましたが、住民からの寄附金が集まらず、一旦頓挫してしまいます。

しかし、大正 4 (1915) 年、大正天皇の即位記念事業として、ついに設立が実現することになったのです。

早速、各地の図書館規則調査が行われ、渡邊区長自らも約 3 週間東京や大阪ほか、各地の図書館を調査する旅に出ています。



初代館長 河野常吉の功績

100年の歴史を持つ小樽図書館には、様々な資料が集積されています。昭和31（1956）年に博物館ができるまでは、歴史資料の収集も図書館の重要な使命でした。



開設当初から本の閲覧はもちろん、様々な講演会を開催するなど、市民への啓蒙普及活動に力を入れていました。とりわけ、初代館長の河野常吉（1862～1930）が収集した幕末から明治初期にかけての古文書類は極めて貴重な資料群です。

河野常吉は明治大正期にかけて活躍した地方史の研究者であり、その歴史認識の正確さと深さは当時から高く評価され、彼によって図書館の方針が確立され、小樽図書館は確かな一歩を歩み始めます。

図書ノ選擇

- 一、是非公衆ニ読マセタイト思フヤウナ模範的ノ書物力書架ニ在ルヤ否ヤニ注意セヨ
無ケレハ買入ルベシ
- 一、永イ間取り出サレズニ書架ニ載ツテ居ル書物ニ注意セヨ、ソシテ何故ニ読マレヌカヲ
吟味セヨ
公衆ノ知識力低イ為力、公衆ノ趣味ニ適セヌ為力、公衆力能ク指導サレタ為力、全ク
不良ノ書ナルガ為力
- 一、科学、芸術、歴史、法律等其選択ニ専門知識ヲ要スル書ニ向テ聰明ヲ欠クコトナキ歟
- 一、両々相争フ問題ニ関シ之ヲ代表スル双方ノ書物ヲ公平ニ備ヘ付ケアルヤ
- 一、一流ノ学者ノ著書ヲ成ルヘク探ンデ買ヘ、名モ知レヌ人ノ著書ハ能ク能ク吟味シタ上
デナケレハ買フナ
- 一、読者ノカニ有リ余ル書物ヲ買フナ、
- 一、容易ニ破損シサウナ表装ノ本ヲ買フナ、但シ有益ナ古本ナドハ此限リデハナイ
- 一、叢書、全集等ヲ無闇ニ買フナ、玉石混淆ノ弊ガアルカラダ、
- 一、読者ノ要求ニ注意シ、善イト思フ本ナラバ速ニ買入レヨ、不良ノ本ナラバ絶対ニ買フナ
- 一、発行所ノ代理人ナドニ逢フテ軽々シク予約スルナ、強請サレテ義理デ買フノハ最モ悪イ



展示風景

■ 大いに賑わう小樽 ～ 港と運河 ～

最大の関心事であった港湾修築は、運河式か埠頭式かの長い論争の末、ついに運河式に決定し、大正3（1914）年起工、大正12（1923）年に小樽運河が完成しました。運河は港湾荷役の拠点となり、行き交う船で賑わいました。大正13（1924）年に、小樽港に入港した船舶隻数は6,248隻。これは設備の整った現在よりもはるかに多い数字です。当時の小樽港は荷揚げ待ちの船舶で賑わっていました。

■ 小樽名物① ～ 聯合運動会 ～

大正時代の小樽の名物のひとつ、「聯合運動会」。

明治21（1888）年に始まったこの一大イベントは、その後は毎年5月、花園公園に全小学校が一堂に集まり、それぞれの技を競い合うという、圧巻の大運動会でした。この日ばかりは多くの商店が休業し、会場は多くの見物客でごった返したといえます。

■ 小樽名物② ～ 軍艦見物 ～

大正9（1920）年9月、聯合艦隊旗艦伊勢以下40隻以上が小樽港に入港し、これを一目見ようと大勢の見物客で空前の賑わいとなりました。この後、大正11（1922）年にも旗艦長門、金剛、比叡など44隻の大艦隊が入港し、軍艦見物が小樽の風物詩となっていました。

■ 北海道博覧会

大正7（1918）年、開道50年を記念した北海道博覧会は、札幌を第1、2会場として、小樽を第3会場として開催されました。小樽の会場は、運河第二区埋立地に水族館や放魚池をつくって行われました。





■ 河野常吉の功績

図書館の設立に力を尽くしたのが第5代小樽区長 渡邊兵四郎ならば、河野常吉は、図書館の経営方針を確立した功労者です。彼は図書館職員全員で相談し、図書館事務の在り方を決定するなど、小樽図書館の運営方針を確立しています。

また、彼は資料の選択と収集について指針を覚書として残しています。その理念は、今もなお、力強い光を放っています。（『河野常吉資料 54 小樽図書館』「図書ノ選択」より）

彼の歴史に対する眼は徹底しており、大正14（1925）年に発行された小樽市小学校の副読本『小樽市郷土誌』（小樽市教育会）の記述内容の問題点を指摘し、痛烈に批判しています。この後の昭和2（1927）年版は彼の監修となっています。

■ 図書館報 ～ 小樽図書館と其事業 ～

大正15（1926）年10月、市立小樽図書館は読書週間にあわせ、館報『小樽図書館と其事業』を創刊し、その「発刊の挨拶」の中で当時の館長 林田政徳は、図書館の果たす使命を述べています。

残念ながら、昭和19（1944）年の170号で終刊しましたが、現在は『図書館だより しらかば』（一般向け）、『こどもとしょかんだより きっずおたる』（子ども向け）が毎月発行されています。

■ 本を借りるためには？

当時は現在と異なり、図書館から本を借りるには、本と同じ価格の保証金を支払うか、校長、官公庁、会社、銀行などの主任以上の要職にある人の紹介か保証が必要でした。『図書館雑纂』には「保証書」が残されています。

これに対し、大正14（1925）年1月27日付の小樽新聞の投書欄で「小林北湖」なる人物が、市民共有であるべき図書館が一部の優遇された人々しか利用できない現状を痛烈に批判しています。



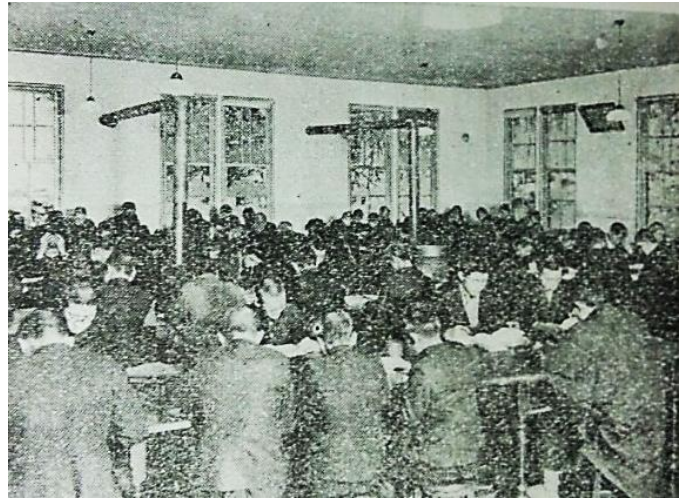


〇今にして人々が故郷の内地を
 忘れず出来得る限り自然に堪へ
 得る覚悟を以て小なりとも新故
 郷の心かけなくは今後北郷道
 のみならず我常陸に及びて新故
 郷の苦しみを受ける事は必定で
 す心ある人々よ幸に此言を許
 し給へ(旅中の永原真一)

◆ 図書館雑誌観
 〇図書館に行く。何時行つても
 〇が完全に除けられてないのが
 眞先に不慣れな念を抱かされる。
 市立小樽図書館―其處に通ふ
 人達は殆ど学生が大部分だ。ま
 して貸出期間の短縮と資格の緩
 和されない現在に於ては銀行會
 社や警察官等の貸出以外の者

僅に市會議員の保證によつての
 み貸出の恩恵に浴するのみとは
 あまりに情ない。図書館は市立
 である。市民の共有である。そ
 れが館の一部に貸出にのみ
 限られるのは誠に遺憾である。
 〇冬季図書館に於ては貸出
 書を停止したのは貸出書の主
 旨によるものなるが近頃行つ
 て見るに閲覧者は何れもスト
 ールの寒苦しさに館員の非論議を
 非難しないものはない。實際あ
 まりに寒過ぎる。図書館には幸
 か不幸か寒暖計が一本もなかつ
 たが恐らく八十度内外の温度で
 あつたと思ふ。甚だ不愉快だ。(北
 湖)

のみならず試みだ不衛生だ。試み
 に寒暖計を備へて見よ。それに
 公衆が出入する處なるに一個の
 寒風もない。
 〇図書館に出入する者は向ふ見
 ずの学生が大部分なので圖書に
 は落書してない圖書は珍らしい。
 い。あきれられる。又図書館のカー
 ドにも種々な落書を散見する。
 館員よ一試みに組會部門のカー
 ドを調べて見よ。落書ははしい話
 だが男女の生殖器が書いてある
 ではないか。一體例をして居る
 のだ。文學部門のカードの見出
 しが揃れて全く文字も見えず用
 をなさないではないか。それか
 ら子供に今少し親切なれ(小林



上 学生で賑わう閲覧室。この頃の利用者は、館内閲覧・館外貸出しともに「学生」が第1位で、次いで「児童」が第2位であった。 『市立小樽図書館要覧』(1935)より
 左 「小林北湖」の投書(小樽新聞 大正14年1月27日付)

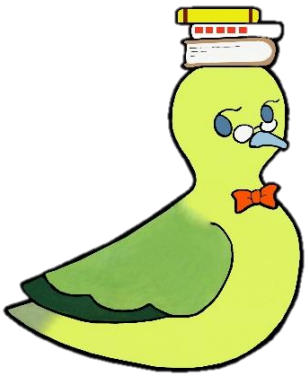
■ 新旧交代のとき！！

当時多くの人々が待ち望み、設立から7年かかりようやく大正12(1923)年に建てられた図書館は、その後60年間人々の暮らしを見守り続けましたが、著しい老朽化により、ついに昭和57(1982)年に取り壊され、翌年に新館が建てられました。

多くの人々の努力によって設立された小樽図書館。現在も図書館の使命を果たすべく、様々な事業を行っています。

今年は100周年を記念し、ますます一層市民に親しまれる図書館を目指すため、市内の小中高校生からイメージキャラクターを募集し、市民からの人気投票によって「たるぼとちゃん」に決定しました。

渡邊兵四郎の図書館設立への情熱、そして、初代館長河野常吉の理念は、今も脈々と受け継がれているのです。



← 新イメージキャラクター「たるぼとちゃん」 小樽市の市鳥アオバトがモチーフ



展示資料リスト

書名情報	著者名	出版者	出版年	請求記号
小樽商工案内 大正 7 年	小樽商業会議所／編	小樽商業会議所	1918	670.35/O/T7
小樽市統計書 第 20 回(大正 13 年) 第 2 編	小樽市／編	小樽市	1926	351.722/O/T13-2
小樽市統計書 第 21 回(大正 14 年)	小樽市／編	小樽市	1927	351.722/O/T14
小樽港勢要覧 大正 13 年版	小樽商業会議所／編	小樽商業会議所	1924	683.9/O
小樽運河史	渡辺悌之助／[著]	小樽市	1979	684/W/□
小樽文化史	渡辺悌之助／著	小樽市	1974	217.22/O
小樽花柳史	菱田 録弥／著	梅声館	1912	384.9/HI
案内	安岡 北洲／編	安岡北洲	1918	291.09/Y
小樽	棟方 虎夫／著	小樽発行所	1914	291.722/MU
小樽	吉田/初三郎／[著]	北海道大博覧会	1936	Y351.722/O/[S11]-4
小樽名所図会	小樽商工会議所／[著]	小樽商工会議所	1929	291.722/O
小樽区写真帖	小樽区／編	小樽区	1911	291.722/O
北海道博覧会記念 写真帖		北海道記念協会	1918	291.09/HO
小樽区写真帖	小樽区／編	小樽区	1922	291.722/O
小樽なつかし写真帖	小樽なつかし写真帖 編集委員会／編集	北海道新聞小樽支社	2010	217.22/O/2
小樽市郷土誌	小樽市小学校郷土誌 研究部／編	小樽市教育会	1927	291.722/O
河野常吉資料 54 小樽図書館				094/KO/43
河野常吉資料 58 図書館雑纂				094/KO/44
河野常吉資料 1008 日記				094/KO/1057-14
小樽チャンネル 2016 年 6 月号	K2	K2	2016	
小樽新聞 明治 35 年 9 月 28 日	小樽新聞社	小樽新聞社	1902	
北海道新聞 昭和 55 年 5 月 30 日	北海道新聞社	北海道新聞社	1980	

その他、展示ケースに入らなかった資料

書名情報	著者名	出版者	出版年	請求記号
小樽港大観	小樽市／編	小樽市	1926	683.9/O
小樽港概観	平山税関長／口述	函館税関	[1925]	683.9/O
小樽港案内	小樽港湾修築事務所／編	小樽港湾修築事務所	1922	683.9/O
小樽区之図		[出版者不明]	1918	㊦/722/22
最新小樽市全図	八木仙太郎		1926	㊦/722/10
写真集 明治大正昭和 小樽	小樽史談会／編	国書刊行会	1979	217.722/O
写真で迎える小樽	佐藤圭樹／編著	北海道新聞社	2014	217.722/SH
小樽なつかし写真帖	小樽なつかし写真帖 編集委員会／編集	北海道新聞小樽支社	2008	217.22/O
写真で見るこころの 小樽	合田一道／監修	郷土出版社	2015	217.22/SH
開道五十年記念 北海道博覧会写真帖	北海道博覧会／編	北海石版社	1919	606.9/HO
小樽繁昌寿語六	喜信堂／[編]	喜信堂	1907	291.722/O
稲穂の百年	小樽市立稲穂小学校 開校百周年記念協賛 会百年史編纂委員会／編	小樽市立稲穂小学校 開校百周年記念協賛会	1997	376.2/I

.....

展示にあたり、市立小樽図書館より以下の資料の協力をいただきました。(複写)

『聯合艦隊関係資料』(小樽市役所ほか//編 小樽市役所 請求記号:T397.4㊦)

『市立小樽図書館要覧』(市立小樽図書館 1935 請求記号:T013ㄱ)

『小樽図書館と其事業』(市立小樽図書館 1926 創刊 請求記号:T013.7ㄴ)

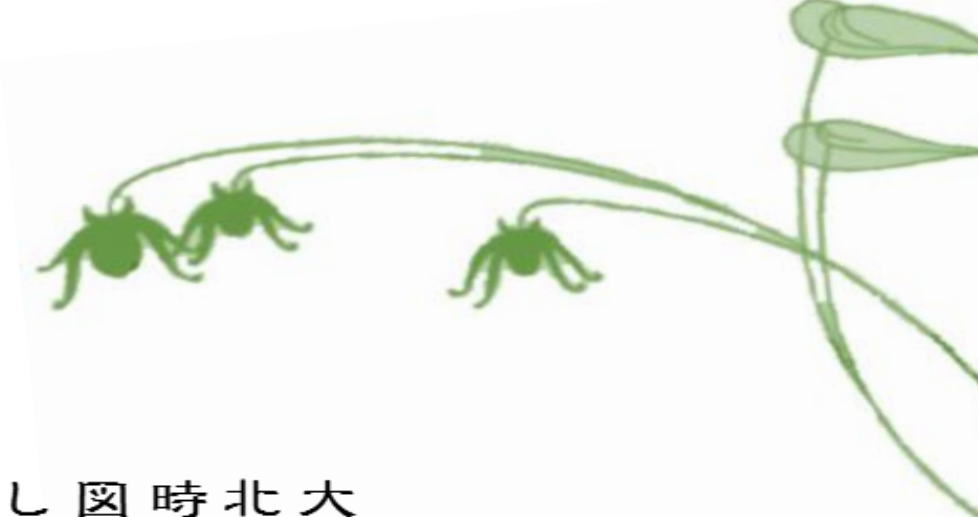
『小樽区全景 大正11年』(市立小樽図書館所蔵写真 撮影年:1922)

『図書館だより しらかば』(第351号 2016.10月号)


『こどもとしょかんだより きっずおたる』(vol.206 2016.10月号)

『市立小樽図書館一覧 昭和9年度』(市立小樽図書館 1934 請求記号:T016.2ㄴ34)

Okaru City Library



大正時代。
北の都として最も光り輝いた
時代の小樽と、そこに誕生した
図書館のものがたりをお見せ
しませう。



北方資料展 目録

「大正浪漫 港町小樽 ～市立小樽図書館創立百年物語～」

発行年：平成 28 年 11 月

編 集：北海道立図書館北方資料室 発 行：北海道立図書館

〒069-0834 江別市文京台東町 41 番地

TEL：011-386-8521 FAX：011-386-6906

URL：<http://www.library.pref.hokkaido.jp/>